

令和２年度に向けた我が校の教育ビジョン

作成年月日：令和元年１２月１３日

伊丹市立伊丹高等学校

(学級数 21 学級、生徒数 828 人)

1 本年度の取組状況

(1) **学習活動** ※詳細は下記「7 学力向上に向けた取組」を参照

- ① グローバル人材の育成、語学力向上、積極性・チャレンジ精神・柔軟性など培う様々な体験的学習活動（「オーストラリア語学研修 7/20～8/5」「English Camp 7/25～7/27」「English Summer Seminar 8/27～8/29」）
- ② 「総合的な探究の時間」に先駆けた探究活動としての「卒論探究」の取り組み
- ③ 教員による補習（通年）や「トワイライト講座（校内予備校、通年）」等で多様な学習機会の確保、少人数授業、習熟度別授業、ICT機器の活用等で学びの質の向上
- ④ 商業科での地元の特産品レモンを活用した商品開発、「言の葉カフェ（伊丹市立伊丹郷町館）9/28～9/29」「学校説明会」での販売実習

(2) **特別活動・学校行事**

- ① 地域や市立伊丹特別支援学校と共同で市高祭の中で「文化祭 6/14～6/15」「体育祭 9/27」を実施
- ② 近畿大会・全国大会等に出場する特色ある部活動の活性化（なぎなた、レスリング、自転車競技、体操競技、陸上競技、水泳、吹奏楽（ジャズアンサンブル）等）
- ③ 国際交流基金主催による「日韓交流おまつり 2019 in Seoul」に吹奏楽部が招待され、韓国の高校生と合同演奏

(3) **国際理解教育**

- ① 「ベトナム修学旅行 11/12～11/16」期間中に Nguyen Thi Minh Khai（グエン・ティ・ミン・カイ）高校と交流
- ② 伊丹市中学校教育研究会英語部会と共に「中学生英語暗唱・スピーチ大会 9/7」の実施
- ③ 文部科学省が展開する「トビタテ！留学 JAPAN」を活用した海外留学の促進（韓国ソウル・アメリカ・ボストン）、長期の海外留学生を受け入れ（オランダ（女子）から 8/30～6/10）

(4) **地域貢献・地域交流・異校種連携**

- ① 地域の夏祭り（鈴原・稲野）や老人福祉施設などでの演奏活動（吹奏楽部・運営補助（生徒会執行部・ボランティア生徒））
- ② ボランティア生徒が有岡小学校、南小学校において学習支援（土曜学習）
- ③ 学校説明会（8/7）やオープンハイスクール（10/19、10/26）、学校見学会やトライやるウィークでの中学生受け入れ等で、中高連携の深化
- ④ 伊丹市立伊丹特別支援学校と交流学習（音楽科）の実施

2 めざす学校像

“学びのフロンティアへの挑戦” 伸びる力をより伸ばす市高教育の実践
～グローバル人材育成プロジェクトの発展をめざして～

市高の目指す5つの“学びのフロンティア”

- (1) グローバル人材の育成に向けた多様な取組の充実と推進
- (2) 主体的・対話的で深い学びの上に立つ、探究力と自己教育力の育成
- (3) 自己実現を目指し、より良く生きるためのキャリア教育の推進
- (4) 地域を理解し、交流を通して地域に貢献できる人材の育成
- (5) 小学校、中学校、特別支援学校等との学校間連携の強化（学びの継続性）

3 めざす生徒像

人格の完成を目指して知・徳・体の調和を図り、平和的な国家及び社会の形成者としての資質の向上に努め、心身ともに健全で個性豊かな人間を育成する。（本校教育目標）

4 めざす教師像

- (1) 授業の質の向上と充実に努め、生徒の学力・個性・人間力をより高め伸張することのできる教師。
- (2) 生徒一人ひとりの能力・適性・進路希望等の実態を十分に把握し、生徒に寄り添った丁寧な指導ができる教師。
- (3) 常に自ら学び続ける姿勢と目標を持ち、知識・技能や指導力を高めるために研鑽に務める教師。

5 我が校の特色

1学年に普通科6学級（うち1学級はグローバル・コミュニケーションコース）、商業科1学級の2学科7学級を有し、全学年で21クラスの規模を誇る。伊丹町立裁縫学校に淵源をもち、110年以上にわたって伊丹市民に愛されて育った学校である。その歴史的背景から地域とのつながりを重視し、またグローバル人材の育成と専門学科（商業科）のノウハウを活かしたキャリア教育に力を入れている。

6 我が校の研究概要

研究発表等で確定したものは無いが、年間を通じ次の研究課題に取り組む。

- (1) グローバル人材育成に効果的な学習法・学習内容の研究
グローバル人材の構成要素を次のⅠ～Ⅲのように共通理解し、各教科・学年等で具体的研究を進める。

※グローバル人材の構成概念

要素Ⅰ： 語学力・コミュニケーション能力

要素Ⅱ： 主体性・積極性、チャレンジ精神、協調性・柔軟性、責任感・使命感

要素Ⅲ： 異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティー

- (2) 大学入試改革の動向とその対応策についての研究

大学入試改革の動向とその対応策について、一層の研究に取り組む。現状では大学入学共通テスト（現センター試験）に記述式問題が導入され、英語の4技能評価が実施されると考えられている。それらに備えるため、高等学校で身につけるべき基本的な学力のうち「課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力（語学スキルを含む）」を涵養するという点を中心に研究を進めたい。これらの取組は本校の重点目標を構成する「グローバル人材の育成」や「自己教育力の育成」とも深く関連している。

(3) 新学習指導要領に対応したカリキュラムの研究

2022 年度から実施される高等学校新学習指導要領について、その内容構成をしっかりと理解した上で、「社会に開かれたカリキュラム」「カリキュラム・マネジメント」の意義を十分に踏まえ、本校にふさわしいカリキュラム編成を研究する。

7 学力向上に向けた取組

(1) 学習機会の確保と提供

- ① 週あたり32～33時間の授業時間を確保する(週2～3回7校時授業)。生徒の特性や進路希望に応じた少人数授業を実施する。
- ② SHR前に全員参加の朝学習(小テスト・読解力強化等)を実施する。
- ③ 早朝、放課後や長期休業中に補習を実施する。特に夏季休業・春季休業では全員参加の「学習会」を終業式後の日程で実施する。
- ④ 外部講師による「トワイライト講座(校内予備校)」や「商業科英検対策講座」を実施する。

(2) 学びの質の向上

- ① 「GCジョイント」「理系ジョイント」等、異学年間の学び合い・教え合いを通じた対話的・主体的に学ぶ力を強化する。
- ② 「海外語学研修」「English Camp」「English Summer Seminar」「京都語学実習」「商業科販売実習」等により生徒の実践的学力を向上させる。

8 教職員の勤務時間の適正化に向けた取組

- (1) 週1回の「定時退勤日」、「ノー会議デー」、平日週1回、土日少なくとも1回は部活休養日とする「ノー部活デー」の実施
- (2) 従事時間申告書の完全提出による、勤務実態の把握
- (3) 職場で業務改善を進めるため「教員の働き方改革」に基づいた職員研修の実施

9 今後に向けて

※「2 めざす学校像」の5つのテーマに沿って記述する。

(1) グローバル人材の育成

「グローバル・コミュニケーションコース」での取組を基に、学校全体で語学力・コミュニケーション能力を育成する。英語を中心とした語学力、特にその運用力を向上させることに加え、積極性・チャレンジ精神・柔軟性などの資質や態度を身につけさせるため、体験的で視野の広い学習機会を提供する。また、商業科においても全商英検への取組を強化するなど、学校全体でグローバル人材の育成に力を入れる。

(2) 探究力と自己教育力の育成

自己教育力の育成に向けて、自分で課題を見つけて探究できる学習をすべての授業で工夫する。また、学習過程の手法として「主体的・対話的で深い学び」を積極的に取り入れる。そのために教職員の授業改善研究や研修を一層促進し、保護者や地域向けの授業公開週間を設ける。さらに、新学習指導要領の導入を好機と捉え、「カリキュラム・マネジメント」に基づいた「社会に開かれた教育課程」を編成する。

(3) キャリア教育の推進

進路指導をキャリア教育と位置づけ、自己の将来像を描き、学ぶことや働くことの意義・役割を理解させ、「キャリアプランニング能力」を育成する。また、キャリア教育講演会（令和元年度講師 岩本 計介氏 朝日放送アナウンサー）等を通して、自己の未来を自ら切り拓く力を身につけるための意欲や向上心を育成する。

(4) 地域に貢献できる人材の育成

今年度112年を迎える本校の歴史を踏まえ、生徒に伊丹のよさを理解させ、地域との交流の機会を設ける。特に商業科で実施する商品開発、販売実習「言の葉カフェ」等を通して、将来にわたって「伊丹を愛する」人材を育成する。

(5) 学校間連携の強化（学びの継続性）

市立高等学校の強みを生かし、幼保、小、中、特支との密接な連携をとることで生徒の育ちと学びの継続性・一貫性をはかり、「伊丹の教育の完成は市高で」の考えの下、教職員や本校生が地域の学校と交流することによって、地域理解を深める。

市立伊丹高等学校 校長 野崎 雅弘

我が校のHPのアドレスは <http://www.h-itami.itami.ed.jp/>